様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：３２６１５
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０３９６

研究課題名（和文）ヨーロッパ文学における叙事詩的叙述技法の展開に関する比較文学論的研究

研究課題名（英文）A Comparative Literary Study on the Development of the Epic Narrative Techniques in European Literature

研究代表者
佐野　好則（SANO, Yoshinori）

国際基督教大学・教養学部・上級准教授

研究者番号：５０２９５４５８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,400,000円、（間接経費）　420,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、ホメーロス叙事詩の叙述技法に関する基礎的領域と、西洋古典文学作品およびヨーロッパ文学作品における叙事詩的要素の受容を比較文学的に検討する応用的領域からなる。
　基礎的領域の研究としては、『イーリアス』・『オデュッセイア』のメインプロットの中に様々な神話的題材を盛り込む叙述技法を中心に分析・検討を実施した。
　応用的領域の研究としては、叙事詩的叙述技法および叙事詩的な自然観・文明観の西洋古典文学作品およびヨーロッパ文学作品における受容をギリシア悲劇、哲学的著作、ローマ文学、さらにヨーロッパ文学の代表的な作品を取り上げて、実証的な検討を実施した。

研究成果の概要（英文）：This research project is consisted of two areas: the foundational area which deals with the narrative techniques in the Homeric epics, and the applied area which examines the reception of epic elements in Classical literature and European literature with comparative literary perspective.
Within the foundational area, the various narrative techniques which facilitate inclusion of various mythological materials into main plot were examined.
Within the applied area, the reception of epic narrative techniques and epic views on nature and culture in Classical and European literature was examined with concrete examples of representative works of Greek tragedy, Greek Philosophy, Roman literature, and European literature.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学（英文学を除く）・比較文学

キーワード：叙事詩　西洋古典学　比較文学　叙述技法　ホメーロス　ギリシア悲劇　ウェルギリウス　牧歌

１．研究開始当初の背景
(1)本研究の基礎的領域に関しては、従来の研究の動向において、ホメーロス叙事詩『イーリアス』・『オデュッセイア』の叙事詩的叙述技法の基礎的な研究の蓄積は十分にあること、そしてその基礎に立脚して叙述技法の観点から作品論研究を展開する可能性が開かれていることが認識された。

(2)本研究の応用的領域のうち、西洋古典文学におけるホメーロス叙事詩の受容に関して、たとえばウェルギリウスの『アエネーイス』におけるホメーロス叙事詩の受容の研究等、多大な研究の蓄積があるものの、大部分は題材の面での受容に着目した研究であり、特に叙述技法に着目した研究については、さらに進展させる余地があることが認識された。

(3)本研究の応用的領域のうち、西洋古典叙事詩のヨーロッパ文学における受容については、従来の研究、特にＥ・クルツィウスの『ヨーロッパ文学とラテン中世』において、ある程度叙述技法が取り上げられていたものの、特に叙述技法に注目した比較文学的な作品論研究については、これから研究を進展させる余地があることが認識された。

２．研究の目的
(1)本研究の基礎的領域においては、『イーリアス』・『オデュッセイア』における様々な叙述技法に関する従来の研究を把握すること、そしてこれらの技法が用いられている箇所について、各種校訂版や注釈書を参照して文献学的な基礎調査を施した上で、実証的な作品論研究を行うことが目的として設定された。

(2)本研究の応用的領域のうち、西洋古典文学における受容の分野においては、ウェルギリウスの作品等代表的作品における叙事詩的叙述技法の踏襲と展開の検討が目的として設定された。

(3)本研究の応用的領域のうち、ヨーロッパ文学における受容の分野においては、ダンテの作品やミルトンの作品等、古典古代の叙事詩作品を意図的に模倣しつつ独創的な工夫を加えた代表的作品に関する比較文学的な検討が目的として設定された。

３．研究の方法
(1) ホメーロス叙事詩研究の様々な方法論の再検討を通じて、本研究の基礎的領域においては、メインプロットの中に様々な神話的題材が盛り込まれている場面を重点的検討箇所とすることが有効であることが明らかとなった。具体的には、『アイティオピス』や『小イーリアス』等の『叙事詩の環』に共通するモティーフがあらわれている箇所、および登場人物による物語の場面の箇所を重点的検討箇所として設定した。これらの箇所について各種校訂版および注釈書を参照して文献学的な検討を施した上で、神話的題材をメインプロットと適合させるために用いられている叙述技法の解明を試みた。この作業に必要な参考文献のうち国内の研究機関で閲覧・複写できないものについては、オックスフォード大学ボドレー図書館への研究旅行を実施して、文献調査および複写・収集を行った。またこの領域での研究方法について、オックスフォード大学所属の研究協力者であるマルコルム・デイヴィーズ博士と研究会議を開催してアドバイスを得た。

(2)本研究の応用的領域のうち、西洋古典文学における叙事詩的要素の受容については、自然観に関わる叙述や文明観に関わる叙述も含めて、ギリシア悲劇、歴史記述、哲学的著作を重点的な研究対象として設定した。特にアイスキュロス作の悲劇作品『ペルサイ』とヘーロドトスの『歴史』の両方において題材として取り上げられているペルシア王およびペルシア帝国の叙述、ヘーシオドスの叙事詩『仕事と日』とソークラテース以前の思想家の著作における正義の女神ディケーの描写、さらに紀元前５世紀後半の様々なギリシア悲劇およびソフィストに関連するテクストにあらわれる自然観・文明観の描写における叙述技法が、叙事詩的叙述技法の受容に関する実証的作品論研究の対象として設定された。この作業を行う上で必要となる文献のうち、国内で入手不可能なものについては、オックスフォード大学ボドレー図書館にて文献調査および閲覧・複写を実施した。この分野における研究方法については、オックスフォード大学所属の研究協力者であるマルコルム・デイヴィーズ博士およびスティーブン・ハリソン教授、ブリストル大学所属の研究協力者であるロバート・ファウラー教授、エディンバラ大学所属の研究協力者であるダグラス・ケアンズ教授、ノッティンガム大学所属の研究協力者であるパトリック・フィングラス教授とそれぞれ研究会議を開催してアドバイスを得た。

(3)本研究の応用的領域のうち、西洋古典文学の叙述技法のヨーロッパ文学における受容の分野に関しては、牧歌の伝統に属する諸作品の比較文学的観点からの検討が重点的検討課題として設定された。具体的には、牧歌ジャンルの創始者であるヘレニズム期の詩人テオクリトスが英雄叙事詩と同じ韻律(ダクテュロス６脚律)を用いて、牧歌の場面設定に適合するようにどのようにして叙述技法上の工夫を施したか、さらにテオクリトスの主にシチリア島を舞台とする牧歌をウェルギリウスがどのような叙述技法上の工夫を施してローマ的な牧歌へと変容させたか、さらにはルネサンス以後のヨーロッパ文

学の牧歌において、テオクリトスやウェルギリウスを中心とする古典古代の牧歌の模倣・翻案の際にいかなる叙述技法上の工夫が施されたかを解明することが課題となった。この作業に関して必要となる文献のうち、国内で入手不可能なものについては、オックスフォード大学ボドレー図書館にて文献調査および閲覧・複写を行い、また同大学所属の研究協力者スティーブン・ハリソン教授との研究会議を開催して研究方法についてのアドバイスを得た。

４．研究成果

(1)①本研究の基礎的領域については、口承叙事詩論、新分析論、ナラトロジー理論等、ホメーロス研究の主要方法論について検討した。その研究成果の一部を研究代表者による書評「M. L. West, *The Making of the Iliad: Disquisition and Analytical Commentary*」および同じく研究代表者による書評「Noriko Yasumura, *Challenges to the Power of Zeus in Early Greek Poetry*」として出版した。
②また『アイティオピス』、『小イーリアス』等の『叙事詩の環』と類似するモティーフが用いられている『イーリアス』の箇所を叙述技法の観点から分析・検討した。その研究成果は研究代表者による研究論文「ホメロス研究における新分析論―伝統に対する詩人の創造をめぐって」として出版された。また『イーリアス』・『オデュッセイア』における登場人物による物語の場面に見出される叙述技法に関する研究書の出版に向けて作業を進めている。

(2)①本研究の応用的領域のうち、西洋古典文学における叙事詩的叙述技法の受容に関する分野については、アイスキュロスの悲劇『ペルサイ』およびヘーロドトスの『歴史』に見出されるペルシア王およびペルシア帝国についての叙述を比較検討し、その成果を研究書 *From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period* 所収の研究代表者による研究論文“The Representation of the Persian Empire by Greek Authors, with Special Reference to Aeschylus and Herodotus”として出版した。内容的には、アイスキュロスとヘーロドトスによる叙述の相違を悲劇と歴史というジャンルの相違と関連させつつ、両者の根本的な共通点が、『オデュッセイア』に特徴的な人間性の叙述に遡ることを論じた点に学説史上の特徴がある。
②またヘーシオドスの叙事詩『仕事と日』における正義の女神ディケーの描写の哲学テクストにおける受容の検討に関しては、その成果として研究代表者による研究論文“The Backgrounds of Plato’s Definition of Justice in *Republic* 4”として出版した。この論文の学説史上の特徴は、『国家』第 4 巻における正義の定義が、ヘーシオドスの『仕事と日』、ヘーラクレイトスとパルメニデースの哲学的テクストの断片に見出される女神ディケーの叙述と類似することを指摘した点にある。
③紀元前 5 世紀のギリシア悲劇およびソフィスト関連のテクストにあらわれる文明進展史的な叙述の比較検討に関しては、ブリストル大学、エディンバラ大学、オックスフォード大学コーパスクリスティー・コレッジにおけるセミナーでの研究代表者による口頭発表ののちに、オックスフォード大学クラシックス・センターで開催された学会にて研究代表者による口頭研究発表“The First Stasimon of Sophocles’ *Antigone*: Comparison with Texts on Cultural Progress”がなされ、研究代表者による研究発論文“The First Stasimon of Sophocles’ *Antigone* (332-375): Comparison with Texts on Cultural Progress”として出版された。この論文の学説史上の特徴としては、ソポクレース『アンティゴネー』の合唱隊歌にある文明進展史的な叙述を、他の前 5 世紀後半の類似テクストと比較し、その相違点について、悲劇『アンティゴネー』全体との様々な関連性を作り出す叙述技法上の効果があることを指摘した点である。

(3)本研究の応用的領域のうち、ヨーロッパ文学における西洋古典作品の叙述技法の受容に関する分野については、テオクリトス『牧歌』第 1 歌、ウェルギリウス『牧歌』第 5 歌で描写されるダプニスの詩のモティーフとミルトンの牧歌詩との比較検討を行い、その成果として研究書『パストラル―牧歌の源流と展開』所収の研究代表者による研究論文「ミルトンの『リシダス』『ダモン葬送詩』におけるパストラルの伝統」として出版した。この論文の学説史上の特徴は、先行作品の翻案、特にミルトンの作品におけるキリスト教的なモティーフの導入のための創造的模倣を叙述技法に注目して解明した点にある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計　3　件）

① Yoshinori Sano、“The First Stasimon of Sophocles’ *Antigone* (332-375): Comparison with Texts on Cultural Progress”、*Japan Studies in Classical Antiquity*、査読有、第 2 巻、2014 年、31-46 頁

② Yoshinori Sano、“The Backgrounds of Plato’s Definition of Justice in *Republic* 4”、*Dialogues on Plato’s Politeia (Republic), International Plato Studies*、査読有、第 31 巻、2013 年、361-365 頁

③ 佐野好則、「ホメロス研究における新分析論―伝統に対する詩人の創造をめぐって」、『近代精神と古典解釈:高等研報告書』、査読無し、第 1102 巻、2012、89-98 頁

〔学会発表〕（計　1　件）

① Yoshinori Sano、“The First Stasimon of Sophocles’ *Antigone*: Comparison with Texts on Cultural Progress”、Freedom and the State: Plato and the Classical Tradition、2012 年 8 月 6 日、Classics Centre, Oxford University

〔図書〕（計　2　件）

① (共著)川島重成、茅野友子、古澤ゆう子、安村典子、並木浩一、河島思朗、佐野好則、金澤正剛、ピナケス出版、『パストラル―牧歌の源流と展開』、2013 年、288 頁(佐野好則、211-230 頁)

② (共著)J. U. Ro, Y. Levin, A. Faust, A. Fantalkin, O. Tal, Yoshinori Sano、Sheffield Phoenix Press, *From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period*、2012 年、x+216 頁(Yoshinori Sano, 197-204 頁)

〔その他〕

①(書評)佐野好則、「Noriko Yasumura, *Challenges to the Power of Zeus in Early Greek Poetry*」、『西洋古典学研究』、査読有、第 61 巻、2013 年、125-127 頁

②(書評)佐野好則、「M. L. West, *The Making of the Iliad: Disquisition and Analytical Commentary*」、『西洋古典学研究』、査読有、第 60 巻、2012 年、123-125 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

佐野　好則　（SANO, Yoshinori）

国際基督教大学・教養学部・上級准教授

研究者番号：50295458

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし